

带状疱疹の患者数、コロナ禍で増加懸念

2022/6/1 メディカルDOC

コロナ禍によるストレスなどから、带状疱疹の患者が増えることが懸念されています。今回は、带状疱疹について竹内先生にお話を伺います。

[この記事は、Medical DOC 医療アドバイザーにより医療情報の信憑性について確認後に公開しております]

带状疱疹とは？

編集部：

まず、带状疱疹という疾患について教えてください。

竹内先生：

带状疱疹は、水ぼうそうと同じウイルスで起こり、痛みを伴う赤い斑点と水ぶくれが神経に沿って多数集まって帯状に広がる疾患です。症状の多くは上半身や顔に現れ、皮膚症状に

先行して痛みが生じることが多く、その後に皮膚症状が現れます。皮膚症状が治ると痛みも消えることが多いですが、神経の損傷によって带状疱疹後神経痛（PHN）と呼ばれる合併症を引き起こし、痛みが続くこともあります。また、带状疱疹は神経を損傷させるため部位によって、角膜炎、顔面神経麻痺などの合併症を引き起こす恐れもあります。

带状疱疹は50歳代から発症率が高くなり、80歳までには約3人に1人が带状疱疹を発症すると言われています。水ぼうそうが治った後もウイルスは体内（神経節）に潜伏していて、過労やストレスなどで免疫力が低下すると、ウイルスが再び活性化して、带状疱疹を発症します。

带状疱疹が発症するメカニズムについてですが、ウイルスにはじめて感染すると水ぼうそうを発症し、その際にウイルスは神経を通過して神経節というところに潜伏します。その後、ウイルスは休眠状態になりますが、免疫力が低下すると再び活性化して带状疱疹を発症します。日本の成人のうち90%以上は、体内にウイルスが潜伏していて、带状疱疹を発症する可能性があると言われています。

带状疱疹の治療法とは？

編集部：

带状疱疹の治療はどのようにおこなわれるのでしょうか？

竹内先生：

带状疱疹の治療には、水痘・带状疱疹ウイルスが盛んに増殖している段階で、ウイルスのDNA合成を妨げてウイルス増殖を抑える抗ウイルス薬が使用されます。症状が軽い場合や中程度の場合には、飲み薬の抗ウイルス薬で治療することができますが、重症の場合などでは、入院して点滴による抗ウイルス薬による治療が必要となる場合があります。

带状疱疹のワクチンとは？

編集部：



带状疱疹を予防するためのワクチン接種ができるそうですが、どのようなものか教えてください。

竹内先生：

日本の成人の90%以上は、带状疱疹の原因となるウイルスが体内に潜伏することによってできる抗体を持っていますが、免疫は年齢とともに弱まり、带状疱疹を発症してしまうリスクが高くなる傾向があります。带状疱疹の予防接種は50歳以上が対象となり、免疫を強化することで、带状疱疹の発症やなってしまった際の带状疱疹後神経痛を抑制することができます。

まとめ

コロナ禍によるストレスなどから患者が増えることが懸念されている、带状疱疹について今回のニュースで学ぶことができました。免疫力が低下して発症するということで、日頃から規則正しい生活を送ってストレスを溜め込まないことも重要になりそうです。